



秋厚労ニュース

NO1970号

2021年9月1日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

積極的に

国政・行政に 関心をもつ

2021年度方針（案）

秋厚労の2021年度方針（案）は、新型コロナウイルスの影響で日本の医療制度の課題が見えた中で、秋厚労の取り組む方向性を提案しているものです。



2021年5月 国会議員へ要請

秋厚労は職員から「休憩がとれない」「残業が多い」「夜勤が辛い」などの声を聞いてきました。秋田県厚生連だけではなく、全国の病院で共通の課題が幾つもあることから、制度に問題がある事は

方針（案）の柱は、「医療を軸に安心して暮らせる地域を住民と一緒に育みます」「自分のやりたいことができるように職場の労働条件を良くしていく」

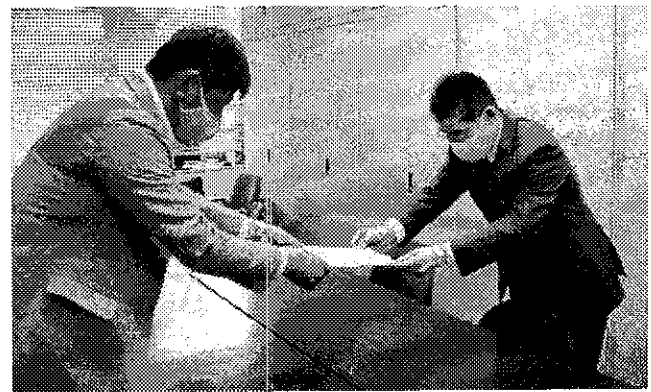
労働安全衛生 委員会の活用

秋厚労2021年度方針（案）の中で、医療は公共性が高い業種にも関わらず、社会的に価値が低く定められているのが問題とされています。一般的に医療は「命を守る・救うもの。一人一人

医療は公共性が高い

世界で新型コロナウイルスは猛威を振るい、各国の医療体制の課題を浮き彫りにしています。日本でも、「助かる命が病

院のベッドの上にさえあがれず、こぼれ落ちていった」と報道があったように、脆弱な医療体制が露わになりました。



2021年1月 県へ要請

「労働組合の活動を知らせ仲間を増やします」です。具体的な活動は24の小項目があり、前年度と比べて、「要求実現のために、国政・地方行政に関心を持つ

診療報酬を引き上げよう

明らかです。

犠牲で成り立つ 医療はやめよう

また、「患者さんのために」と自分の休みを削るなどして頑張っている人が多くいますが、制度を充実さ

て積極的に関与します」「労働環境の課題は病院で開催される労働安全衛生委員会を積極的に活用します」などが新しく盛り込まれています。

せ医療の質を上げるためにも、「何かを犠牲にして成り立つ医療はやめる」ことも方針案に記載しています。人材を育成し雇用を維持できるように、診療報酬の引き上げや新しい施策・制度を求めていきます。

お詫びと訂正

秋厚労ニュースNO1969号（2021年8月25日発行）について、本文3段目・1行目に「年度末手当」と記載ありますが、正しくは「年末手当」です。訂正いたします。

助かる命が病院のベッドにあがれない